月刊ひこばえ2月号

令和5年2月1日発行　第178号
NPO 法人文字情報支援ひこばえ

特 別 寄 稿

筆が教えてくれること

絵本作家　羽尻利門

僕の作品づくりには、毛先のしっかりまとまった、新しい丸筆が欠かせません。 僕の画風が、葉っぱの葉脈や板の年輪模様などを描き込む、細かい描写を特徴としているからです。

一方、新しい筆は、先がとがっている分、広い面を塗るのに適していません。 そこで活躍するのが、使い古した筆です。 古い筆は毛先が広がっていて、壁や地面など、広い面を塗るのに欠かせないのです。その毛先の形は、“十筆十色”。その筆が使われてきた経緯によって、実に様々な毛先の広がり方をしています。

ある筆は、バランス良く毛先が広がってムラが出にくいので、ツルツルとした質感を出したい時に役立ちます。また他の筆は、毛先がバラバラに分かれているので、動物の毛並みや草原を描くのに活躍します。 毛先がさらに複雑な形になった筆は、こちらが意図していない表現を生み出してくれるので、幅広い表現を可能にしてくれます。 同じ筆が、それぞれの経緯を経て多様な形をしている。 そして、それぞれがかけがえのない存在として活躍している。 筆箱の中の個性豊かな31本の筆が、「多様性があることは、素敵なことだ」と、いつも僕に教えてくれます。

このことは、僕たちの生きる社会全体についても言えることです。 ハンディキャップのある人も、ない人も、各々の個性を発揮できる社会。 それは、まさしく素敵な多様性社会です。 その社会の実現の大きな原動力となる、ひこばえさんの存在は、今後ますます重要なものになると思います。会員の皆様の日頃からのご活動を、心から尊敬し、応援しております。

「こだまでしょうか」より（絵・羽尻氏）

～・・・～・・・～・・・～・・・～

★羽尻さんは絵本づくりに欠かせない言葉、絵、筆をとおして、ひこばえの活動にエールを送ってくれました。2 か月にわたり、ありがとうございました。社会における役割を再確認し、今後の励みにします。羽尻さんの文章から感じられる優しさが、絵にも投影されています。羽尻さんの絵の世界にひたってみてはいかがでしょうか。

【2月の予定】

5日（日）講演会「まちづくり講座」3－①【延期】
8日（水）小松島市人権教育・啓発研修大会
11日（土・祝）第41回徳島市障害者福祉展
12日（日）講演会「まちづくり講座」3－②
19日（日）講演会「まちづくり講座」3－③
24日（金）中学校演劇台詞出し
26日（日）講演会「まちづくり講座」3－①

【2月の勉強会】

ふれあい健康館1階セミナー室
10:00～12:00
4日（土）、18日（土）